



公開講座

神奈川の海を学ぶ2015

参加者募集
無料

神奈川県は東京湾と相模湾に隣接し、横浜港をはじめとした重要港湾や多くの海洋関連企業・研究機関が立地し、さらに湘南海岸という日本屈指の海辺地域がある一方で、歴史的には大地震が繰り返し発生しています。このように、神奈川を取り巻く海は多様な活動が展開されると同時に、多くのステークホルダー（利害関係者）や課題が絡み合っています。また、多様な「利用」が行われる一方で、環境、生態系などへ及ぼす影響が懸念され、一定の「保護」が必要とされています。

本講座は、神奈川の県民に身の周りにある海についてのリテラシーを高めってもらうため、現代日本の海洋政策のキーワードである統合的海洋管理の視点から公開講座を開催します。

講義日程：

【第1回】10月14日（水）19時～21時

世界と日本の海洋史 II -200海里および我が国の最近の取組-

中原 裕幸（横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授）

【第2回】10月28日（水）19時～21時

港のお話 -横浜港を通じて-

赤司 淳也（横浜港埠頭株式会社 統括理事）

【第3回】11月11日（水）19時～21時

港町の災害と対策

宮本 卓次郎（横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 教授）

【第4回】11月25日（水）19時～21時

横浜の港町としての楽しみ方

嶋田 昌子（NPO法人横浜シティガイド協会 理事）

【第5回】12月 9日（水）19時～21時

相模湾の四季-百万年の歴史が作り出した深海を色取る多様な生きものたち-

田代 省三（(国研)海洋研究開発機構 工学センター長代理）

※詳しい内容については裏面をご覧ください。

会場：

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階

一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム（みなとみらい線みなとみらい駅徒歩3分）

※詳細は裏面をご覧ください。

申し込み方法：

横浜国立大学ホームページからお申し込みください。（または、下記の問い合わせ先にお電話で。）

【トップページ→産学・社会連携→生涯学習 公開講座のご案内】

問い合わせ先：

横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 電話：045-339-3067

主催：横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 助成：日本財団

後援：横浜市（申請中）

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

<要旨>

【第1回 世界と日本の海洋史Ⅱ－200海里および我が国の最近の取組－】

中原裕幸（横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授）

人類は古代から現代に至るまで、海をどのように認識し、また管理しようとしてきたかについて学びます。ローマ時代の海（地中海世界）の認識、中国およびヨーロッパにおける大航海時代、スペイン・ポルトガル、次いでオランダ・イギリスによる世界の海洋分割の時代、国際海洋法の形成過程と戦後の国連海洋法条約（UNCLOS）の成立過程、そして今日の200海里問題まで、世界の流れをおさらいします。さらに、日本の明治維新から始まる海洋管理、1990年代のUNCLOSの批准と200海里的EEZ設定、そして今世紀に入ってから海洋基本法と旧新海洋基本計画を踏まえて、最近の我が国の海洋に対する取組状況等を整理します。

【第2回 港のお話－横浜港を通じて－】

赤司 淳也（横浜港埠頭株式会社 統括理事）

我が国は、国土を海に囲まれているが故に多くの港湾を有しています。その港湾が時代に応じて適切に機能を果たしてきたことによって我が国の経済は発展し、現在の先進国としての地位が築かれています。しかしながら、多くの国民はそのことについての認識が殆どないというのが実態です。本講義では、我が国の港が歴史的にみてどのような役割を果たしてきたのか、横浜という都市と横浜港の関連性、横浜港が果たしてきた役割の変遷、更には今後の課題等についてビデオ映像を交えながら概説します。本講義により港や横浜港に対する市民の理解が深まることを目指します。

【第3回 港町の災害と対策】

宮本 卓次郎（横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 教授）

東日本大震災では大規模な地震と津波が東北地方の港町を襲いました。そして、南海トラフ大地震や地球温暖化による台風の巨大化が懸念されています。

海に面した港町だからこそ、台風、高潮、地震、津波など大規模な自然災害への備えが必要です。本講義では「自然災害とは何か?」、「災害から身を守るにはどうすれば良いのか?」をテーマに、東日本大震災での港湾被害と事前・事後の対応について、当時、国土交通省東北地方整備局に勤務していた講師の体験を踏まえて解説するとともに、災害発生メカニズム、防災対策の考え方、望ましい日頃の心構えなどについて解説します。

【第4回 港横浜の港町としての楽しみ方】

嶋田 昌子（NPO法人横浜シティガイド協会 理事）

日米和親条約が締結された海辺の小さい村は、やがて世界に開かれた開港場となり、発展に次ぐ発展を遂げ、首都東京に次ぐ日本第二の都市になりました。日本の近代化は、この横浜を舞台としてスタートしたのです。黒船来航から始まった歴史は、関東大震災、戦災と進駐軍による接収など激動の日々でした。様々な国、地方から訪れた人々との交流は、港町ヨコハマの自由な風が通りぬける町の空気を作りました。

地図を片手に、港町を歩いた気分になってみませんか。

【第5回 相模湾の四季－百万年の歴史が作り出した深海を色取る多様な生きものたち－】

田代 省三（(国研)海洋研究開発機構 工学センター長代理）

相模湾はプレート境界に位置する海底地形が急峻な湾です。また、黒潮や親潮からの流れが入る湾でもあります。その為、日本の約4,000種の魚類中1,300種以上が確認されている魚の宝庫です。偉大な先達は相模湾に早くから注目していました。1875年英国の調査船「HMSチャレンジャー」は、世界周航探検航海の途上、相模湾で深海生物を多数採取しています。また1877年、大森貝塚の発見で有名な米国の動物学者モースが、日本初の臨海実験所を江の島に開設しました。急峻で変化にとんだ地形、豊富な生物相、また日本で最初に発見された化学合成生態系等、深海の素晴らしさが凝縮した相模湾を有人潜水調査船の元パイロットがご案内します。

○会場アクセス

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階
一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム

みなとみらい線みなとみらい駅 徒歩3分

JR桜木町駅 徒歩10分

市営地下鉄桜木町駅 徒歩10分

